様式第２号(第７条関係)

会 議 結 果 報 告 書

令和７年２月１９日

会 議 の 名 称	令和６年度 第３回舞鶴市発達支援体制検討会議	
種 別	□附 属 機 関　　■懇 話 会 等	
開 催 日 時	令和７年１月２８日（火）　１４時 ～１６時	
開 催 場 所	舞鶴市中総合会館４階　４０１会議室	
出 席 者	小谷裕実、北野幸子、四方あかね、平進、中森裕、楠崇智、仲川真広、西邑公子 事務局（森輝明、瀬野勝久、尾橋淳子、飯田美和、守屋和行、鎌部晶子、真下知子、村上梨歩、尾上あかり、長沢凛、植田葵、内藤恵美）	
議 題	（１）第２回会議の振り返り （２）今後の発達支援・家族支援体制のあり方について ・児童発達支援事業所「さくらんぼ園」が目指す方向性について ・発達支援ファイル、移行支援について （３）意見交換	
公 開 の 区 分	■公　　開	
	□部分公開	［理由］
傍 聴 者 数	０名	
審 議 結 果 及 び 主 な 意 見 等	別紙参照	
会議録の作成様式	□詳　細　　■要　約	
備 考		

担 当 課	舞鶴市健康・こども部　こどもまんなか室 こども家庭しあわせ課 TEL （０７７３）６６－１００８

第３回　舞鶴市発達支援体制検討会議　報告書（要約版）

日時：令和７年１月２８日㈫１４時～１６時
出席者：別紙参照
場所：中総合会館４階　401 会議室

1. 第２回会議の振りかえり

テーマ「就学前発達支援システムの再構築」～5 歳児健診・幼児教室・教育相談～

① 現行の就学前発達支援システムの課題と変更案について
（案）にじいろ園巡回を活用して、保健・福祉・教育部門が年中の早い時期からつながり、支援が必要な子どもの様子を共通理解して支援できるしくみ

② 国が導入の方針を示している 5 歳児健診について
（案）にじいろ園巡回とドッキングして実施する

③ 幼児教室について
（変更案）にじいろ園巡回の事後支援であるなかよしルームを、5 歳児健診の事後支援としても活用する

④ 教育相談について
（変更案）子どもの様子の把握に集団行動観察を導入、最適な学びの場の判定のために検討会議を導入する

※詳細は第２回の報告書を参照。

（意見交換）

① 就学前の発達支援システム

- 保護者に市の発達支援体制を説明するために、誰が（園、乳幼児業育センター等）どういう支援を行っているか、誰がという人がわかる資料になるとよい。

② ５歳児健診

【実施について】

- ５歳児健診の役割を果たすものとして年中児サポート事業を開始した経過がある。現在は全年齢を対象とするにじいろ園巡回を実施しているので、これと 5 歳児健診をドッキングして実施する形は良い。
- 1 対 1 では気にならないが、集団生活で周囲とうまくいかない場面がある。巡回メンバーが普段のクラスの様子を見るにじいろ園巡回と 5 歳児健診とをドッキングすると、全園児対象に実施ができるため良い。
- 実施方法の検討にあたり、国が出している５歳児健診ポータルサイトを参考に。
- 就学まで猶予のある段階で困り感を発見できるメリットはある。にじいろ園巡回とのドッキングでなく、新たにどう実施するかを考えてもよい。

【医師の確保について】

- ポータルサイトを見ると、医師の専門性について、発達に特化した医師でなくてもよさそうだ

った。

【問診表について】

- TASP（園の要録作成時に客観的な基準でこどもの発達を評価できるシート）を活用してはどうか。健診用に独自に作成した問診表が標準かどうか判断するために、TASP と比較して判断されることがある。そのまま利用してもよいし、アレンジしてもよい。

③ 教育相談

【方法について】

- 集団行動観察を含めるのは有意義
- 京都府教育委員会作成の「まなびの道しるべ」には、多様な学びの場でどのように学習するかや、入学までの流れが記載されており、夏の教育相談を前に各小中学校の特別支援教育コーディネーターに渡して活用している。
- 教育相談に医師として参加していた経験があるが、身体的に授業を受けることができる健康状態かを判断するという目的であった。医師が学習や教育面に関する発言をすると、医師が言うのだからと決定的な判断基準になる恐れがあるので、避けなければいけない。これらの理由で、最適な学びの場の最終判断（検討会議）に医師が加わることはよくない。スクリーニングの段階で医師が加わることは賛成である。

【人材確保・専門性の確保について】

- 通級の先生の夏休みに教育相談が集中しており、年々激務になっている。5 歳児健診の事後支援として、教育相談の件数は増加することが考えられるし、集団行動観察や検討委員会の導入など実施方法の見直しによりさらに業務量が増えることが懸念される。保護者への伝え方にも課題がある。教育相談に誰が携わり、時期をどう分散させるのかの検討や、専門性の担保も必要である。
- 保育士や教諭の中に特別支援学校教諭免許状を有する方もいるため、そういう情報を把握して、活躍してもらうことも必要ではないか。

2.今後の発達支援・家族支援の体制整備のあり方について

テーマ「多様な発達特性に対応できるよう支援機能の強化」

児童発達支援事業所（さくらんぼ園）の目指す方向性について（職員で協議した意見）

① 児童発達支援事業

～すぐ取り組めること～

- 並行通園先等と相互交流のうえ、子どもを中心に課題の確認や支援方法の検討
- 家庭での課題があるケースに対する家庭訪問による相談や支援
- 療育参観の機会を作る（母親以外の家族にも児の発達支援への理解を深める）

～今後検討していきたい内容～

- 待機の解消に向けて、療育の必要性や優先度を判断するしくみを検討し、入園・卒園時期の参考にしたり、他機関への移行を調整
- ピアサポートの機会

- 通所したいが、送迎ができない保護者への送迎支援

② 保育所等訪問支援事業

- 現在訪問できていないため、訪問できる体制を整えていきたい

③ 相談支援事業

- さくらんぼ園利用の有無に関わらず、子どもの発達に関する総合相談機能

④ 地域支援・地域連携

- 利用者向け学習会を関係者へ広く案内する
- 子育て全般の相談に対応できる体制の構築
- 利用者以外への公開療育や園開放を企画

テーマ「支援をつなげるしくみの強化」

発達支援ファイルの対象者や活用方法、移行支援の方法が統一されていないという課題に対して、変更案を以下の通り示す

① 発達支援ファイルについて

- 目的：発達支援ファイルは、保健・福祉、医療、教育などの関係機関と保護者がともに、ライフステージに応じて、子どもの発達や年齢に合った適切な支援を行い、連携を深めていくための記録。
  （保護者が管理し、各関係機関が健診や個別の支援計画等の情報等の記録をする）
- 対象者：個別の支援が必要なこども（にじいろ園巡回の個別支援検討会議で支援計画の作成が必要と判断した方）
- 配布元：さくらんぼ園、児童発達支援施設ひかり、保育所、幼稚園、こども園
- 形式：ファイルに挟む
  記入用紙の様式はダウンロード可能にし、入力可能にしていく
  サービスや支援などに関する資料は QR コードで読み込む形式
- 管理：基本は保護者管理

② 移行支援について（案）

- 移行支援シートを新たに作成するのではなく、個別支援計画を移行支援に役立つような様式に変更する

意見交換

児童発達支援事業所（さくらんぼ園）の目指す方向性について

【療育機関のすみわけについて】

- 療育センター（医療として個別に理学・作業・言語の 3 療法と、療育という名の個別の機能的なアプローチ）とさくらんぼ園（全体的な発達や社会性の力の促進）とのすみわけを適切に行う必要がある。

【相談支援事業について】

- 市内に子どもの相談支援事業所が少なくパンク状態であることは大きな課題。

- 相談支援専門員の不足により、セルフプランを立てるよう言われたと聞くが、保護者は、丁寧な説明がなく書き方がわからない、サービス事業所を書いても一杯で利用できないと言われてどうしたらよいかという声を聞く。
- 共働きの家庭が増え、放課後デイサービスは、支援学校の方優先で支援学級の方は入れない、支援学級の方で学童に入れないという声を聞く。待機リストは市が持っているのか、保護者はどれくらい待てば入れるのか知っているのか。
  →市）担当部署不在のため、回答できず。

【さくらんぼ園について】

- 提案された療育の必要性や優先度を判断するしくみとは、具体的にどのようなしくみか
  →児童発達支援事業所には職員の配置基準があり、利用者が 0 人でも基準の職員配置は必要である。一方で、経営も考えないといけないので、年度途中から通所できるよう枠を開けておくことは困難である。また、定員に達した後に優先度が高い子どもが利用するために、すでに利用している人に卒園してもらうしくみもない。卒園の見極めや優先度を検討できる仕組みや、卒園しても利用できるところを市や他機関の力を借りながら作っていきたい。
- 1 クール何回と期間を決めたり、利用開始時に、こうなったら終了と伝えているところもある。
- 送迎の必要性は強く感じているが、送迎には、人材と予算を確保し続ける必要がある。
- 高齢者等施設入所の際には、入所判定委員会というしくみがあるため、優先順位を検討するのに参考になる点があるのではないか。
- 綾部市では、R7.5 月～発達支援センター開設予定。希望者は市で受付予定。

【教育部門からみた就学までにつけておきたい力とは】

- 自分の思いが言える力
- 就職する時につけておきたい力は、挨拶ができることと聞いた。言語・非言語でも相手に答応える力を小さい時から育んでほしい。
- 上記の力のために、家庭環境を整えてほしい

【発達支援ファイル・移行支援について】

～発達支援ファイルの有効性について～

- 発達支援ファイルの対象者や活用方法を決めることで、移行支援が機能するとよい。
- 発達支援ファイル自体はとても良いものだが、活用できる保護者は少ないと思われ、保護者以外、例えば市で管理してもらえる等のしくみが必要。最終的には、データベース化して、一元管理をしながら、関係機関がスマホでログインして見れる・記入できる形にしてはどうか。
- 高校の現場にも発達支援が必要な方が多数入学している。今は、中学校や小学校に出向いて情報収集をして支援を行っているが、発達支援ファイルが有効活用できれば、どのような支援をうけていたかがわかり、移行支援ができるのではないか。
- 就労の担当者から、就学から就職まで切れ目ない支援のため、発達支援ファイルのような引継ぎ資料があると、就職した後の支援（指導の仕方や支援のノウハウ）にも生かせるという意見

を聞いた。

～内容・形態について～

- 穴あけも手間になるため、ポケット型ファイルがよい。
- 持ち運ぶのに大きい。母子手帳サイズがよい。
- 保護者の思いや願いを記載できる欄があればいい。
- 綾部市では、心理士が保護者と一緒に支援ファイルに記載していると聞く
- 何をファイルに挟むかを決めてしまうとみんなの負担が大きいので、自由度があってもよい。
- 個別の指導計画、教育支援計画をファイルに挟んでもらえないケースが多いが、実際はどうなのか。
  →個別指導計画は開示があれば渡せるようにしている（特別支援学校の場合）
  →普通学校の場合には、取扱注意として卒業時に配布してもいいかも
- 記載する側の労力の簡素化が必要

～移行支援について～

- 現在は、園からどういう情報を引き継ぐか、取捨選択しながら移行支援を行っているが、卒園児を多数抱える園は、少人数の園と同じようにできていないのではないか。既定のフォーマットに沿って引継ぎができるしくみがあると、同じレベルで引継ぎができる。
- 保護者が主体的につなげていくことも必要。保護者が発達支援ファイルを持参すれば繋げてもらえるという形になればよい。

～情報の活用・管理について～

- 情報の管理を保護者に委ねるのか、行政が紐づけして保管するのか。母子手帳・疾病歴・住基・健診・就園先・進学情報・手帳の有無・学力テストスコア等を行政が紐づけしている市もある。行政が管理するには、個人情報の壁や、保護者の同意など、課題はあるが、こどもが、自分のデータを自分のために活用できるようにデータを紐づけすること議論にいれてもらいたい。そうすることで、切れ目のない支援体制につながる。
- 行政が情報を管理するには、不正アクセス防止や、情報管理をどう徹底するか、必要な方・内容しか情報は出さないなど、取り扱いや運営規定を専門家を入れて検討する必要がある。
- 情報のアクセシビリティ（情報利便性）をどのようにするのかの検討が必要。